島根大学医学部附属病院

精神科領域専門医研修プログラム

2027 年度版 ver 1.0

2026 年 4 月 1 日改訂

目　次

I.　基本情報 4

II.　専門研修の理念と使命 5

１．専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目） 5
２．使命（全プログラム共通項目） 5
３．専門研修プログラムの特徴 5
（１）基幹施設 5
（２）連携施設 6

III.　専門研修施設群と研修プログラム 7

１．プログラム全体の指導医数・症例数 7
２．連携施設名と各施設の特徴 7
（１）研修基幹施設 7
島根大学医学部附属病院 7
（２）研修連携施設 11
①　医療法人青葉会　松江青葉病院 11
②　医療法人同仁会　こなんホスピタル 13
③　島根県立こころの医療センター 17
④　医療法人同仁会　海星病院 20
⑤　特定医療法人恵和会　石東病院 22
⑥　社会医療法人清和会　西川病院 24
⑦　社会医療法人正光会　松ヶ丘病院 26
⑧　医療法人コスモ会　奥出雲コスモ病院 29
⑨　岡山県精神科医療センター 31
⑩　社会医療法人昌林会　安来第一病院 34
⑪　松江市立病院 37
⑫　松江赤十字病院 39
⑬　島根県立中央病院 42
⑭　隠岐広域連合立隠岐病院 44
⑮　こころの診療所細田クリニック 46
⑯　とみさわクリニック 49
⑰　医療法人同仁会あさひクリニック 51
⑱　(医) エスポアール出雲クリニック 53
⑲　九州大学病院 55

⑳　福岡大学病院 58
㉑　旭川医科大学病院 61
３．研修プログラム 63
（１）専門研修の目標と方法 63
（２）年次研修目標と年次研修項目 64
（３）研修項目一覧、経験症例数及び症例報告数 66
（４）学術活動 66
（５）ローテーションモデル 66
（６）研修の週間・年間計画 69
４．プログラム管理体制について 69
（１）プログラム管理委員会 69
（２）プログラム統括責任者 70
（３）連携施設における委員会組織 70
５．評価について 70
（１）評価体制 70
（２）評価 71
（３）評価時期と評価方法 71
（４）研修時に則るマニュアルについて 72
（５）専攻医研修実績記録 72
（６）指導医による指導とフィードバックの記録 72
（７）修了要件 72
６．全体の管理運営体制 73
（１）専攻医の就業環境の整備（労務管理） 73
（２）専攻医の心身の健康管理 73
（３）プログラムの改善・改良 73
（４）ＦＤの計画・実施 73

I. 基本情報

■ 専門研修プログラム名：島根大学医学部附属病院連携施設精神科専門研修プログラム

■ プログラム担当者氏名： 稲垣 正俊
住所：〒 693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1
電話番号：0853-20-2262
FAX：0853-20-2260
E-mail：minagaki@med.shimane-u.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(6) 人

■ 応募方法：必要な応募書類を作成および準備して提出期限までに送付先へ送付する。

◆応募書類◆
１．申請書（当院卒後臨床研修センターホームページよりダウンロードすること）
２．履歴書
３．医師免許証（コピー）
４．臨床研修修了登録証（コピー）あるいは修了見込証明書
５．健康診断書

◆送付先◆
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1
島根大学医学部精神医学講座 医局長 佐藤 皓平 宛
TEL：0853-20-2262 FAX：0853-20-2260

◆その他◆
応募は提出期限までを原則とするが、やむを得ぬ事情がある場合には、下記※に電話連絡すること。
※連絡先：島根大学医学部精神医学講座
専門研修プログラム事務局 長濱道治（TEL：0853-20-2262）

■ 採用判定方法：
科長（教授）、副科長、医局長が応募書類の記載内容と面接結果に基づき、採用の適否厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。
なお、大学病院の特性上、臨床業務は多岐にわたるため、偏りなく幅広く実践できる能力を重視する。また、臨床現場や医局内では多職種との連携が求められるため、チームの一員として円滑なコミュニケーションを取りながら業務を遂行できる人材を求める。

II. 専門研修の理念と使命

1．専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学及び精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、優れた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、国民の信頼に応えることを理念とする。

2．使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮したうえで診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3．専門研修プログラムの特徴

精神医学は、極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会学的な次元に加えて、実存的・哲学的問題も関与している。複雑を極める精神現象を理解して治療するためには、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージに応じた治療技術が求められる。

そのためには、脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘る領域の理解が必要である。

本研修プログラムでは、それらの領域全てが網羅できるような研修プログラムを準備している。

（1）基幹施設

島根大学医学部附属病院精神科神経科は山陰地方の大学病院の一つとして、地方大学の特徴を活かし、地域密着型の機能を担い、診療、教育、研究を実践している。

当院精神科神経科外来においては、一般外来の他に①児童・思春期外来、②もの忘れ外来、③睡眠外来、④ストレス外来、⑤周産期外来、⑥リエゾン外来の 6 つの専門外来を開設して各専門医による高度な医療を行っている。

入院診療においては、精神科神経科病棟は病床数 30 床であり、一般病棟（開放病棟）、集中治療病棟（10 床の個室がある閉鎖病棟）の設備を備え、また、隔離室は十分なスペースを確保している。患者は、児童から高齢者までの難治例及び身体合併症例などを含む幅広い患者の治療やケアを精力的に実践している。

当院では、チーム医療を重視し、医師、看護師、公認心理師（臨床心理士）、精神保健福祉士、薬剤師、作業療法士、理学療法士など多職種で症例検討会を実施し、申し送りや教授回診ラウンドなどを通じて、専攻医は十分な指導を受けることができる。

また、入院患者が退院する際には、当科関連の他施設・多職種と共に、患者とその家族を交えて「退院前カンファレンス」を実施し、退院後の患者の生活設計及びアフターケアを行っている。

専攻医は、チーム医療の一員として、入院患者の主治医となり、指導医から指導を受けながら、

上述した多職種とチームを組み、各種の精神疾患に対する生物学的検査、心理検査などを行い、薬物療法、精神療法(認知行動療法)及び修正型電気けいれん療法などの治療を柔軟に組み合わせた最善の治療を学ぶことができる。

これらの研修を通じて、ほとんどの精神疾患や、それらに対する治療についての基礎的な知識や技術を修得することが可能である。

また、専攻医は、様々な研究会等に参加し、日常の診療技術の習得と精神疾患の病態解明の必要性を広く学ぶことが可能である。

（2）連携施設

本研修プログラムでは、島根県内外の精神科病院、総合病院精神科、精神科クリニック、島根県外の大学病院の合計 21 施設を連携施設として登録している。

1) 精神科病院医療機関は、次の 9 施設である。
   松江青葉病院、こなんホスピタル、島根県立こころの医療センター、海星病院、石東病院、西川病院、松ヶ丘病院、奥出雲コスモ病院、岡山県精神科医療センター
2) 総合病院精神科医療機関は、次の 5 施設である。
   安来第一病院、松江市立病院、松江赤十字病院、島根県立中央病院、隠岐広域連合立隠岐病院
3) 精神科クリニックは次の 4 施設である。
   こころの診療所細田クリニック、とみさわクリニック、あさひクリニック、エスポアール出雲クリニック
4) 島根県外の大学病院は次の 3 施設である。
   九州大学病院、福岡大学病院、旭川医科大学病院

専攻医はこれらの施設をローテートしながら研鑽を積み、精神科医としての実力を向上させつつ、専門医の資格を取得することが可能である。また希望に応じて参加施設である連携施設において行われている専門的な特徴を生かした研修も可能であり、精神医療の知識や技術を幅広く習得することができる。

III. 専門研修施設群と研修プログラム

1．プログラム全体の指導医数・症例数

■ **プログラム全体の指導医数：85 人**

■ **一年間のプログラム施設全体の症例数**

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	3939	982
F1	1519	523
F2	6655	2291
F3	7910	1069
F4 F50	5954	480
F4 F7 F8 F9 F50	3815	411
F6	383	47
その他	2021	273

2．連携施設名と各施設の特徴

（1）研修基幹施設

島根大学医学部附属病院

・施設形態：国立大学法人、公的総合病院

・院長名：椎名　浩昭

・プログラム統括責任者氏名：稲垣　正俊

・指導責任者氏名：稲垣　正俊

・指導医人数：7 人

・精神科病床数：30 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	310	21
F1	28	3
F2	198	32

F3	312	29
F4 F50	403	24
F4 F7 F8 F9 F50	67	5
F6	10	4
その他	207	7

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

島根大学医学部附属病院精神科神経科は山陰地方の大学病院の一つとして、診療、教育、研究の 3 本柱を実践している。

外来診療においては、一般外来の他に下記の 6 つの専門外来　①児童・思春期外来、②もの忘れ外来、③睡眠外来、④ストレス外来、⑤周産期外来、⑥リエゾン外来を開設して専門医による高度な医療を行っている。

精神科神経科病棟は 30 床で、一般病棟（開放病棟）12 床、集中治療病棟（閉鎖病棟）18 床である。身体合併症を含む児童から高齢者までの幅広い症例に対する治療やケアを精力的に実践している。

当科ではチーム医療を重視し、医師、看護師、公認心理師（臨床心理士）、精神保健福祉士、薬剤師、作業療法士、理学療法士などの多職種からなるチームで、各症例について検討するため、教授回診・リエゾン回診におけるカンファレンスなどを通じて、十分な指導を受けることができる。

また当科関連の他施設の医療従事者と共に、患者とその家族を交えて「退院前カンファレンス」を実施し、退院後の患者の生活設計やアフターケアを行っている。

専攻医はチーム医療の一員として、入院患者の主治医となり、指導医からの指導を受けながら、上述した多職種とチームを組み、各種の精神疾患に対する生物学的検査や心理検査などを行い、薬物療法、精神療法(認知行動療法)、修正型電気けいれん療法などの治療を柔軟に組み合わせた最善の治療を学ぶことができる。専攻医はこれらの研修を通じて、ほとんどの精神疾患、精神医学的治療についての基礎的な知識や技術を修得することが可能である。

さらに当院では、児童・思春期精神医療においては、当科思春期外来だけでなく、小児科医と共に組織している「子どものこころ診療部」と連携し、小児科医から指導を受けることができる。

また、認知症を中心とした老年期精神医療において、当科もの忘れ外来は、脳神経内科医とともに組織している「基幹型認知症疾患医療センター」に所属し、県内の地域型及び連携型の認知症専門の医療機関との連携を取り専門的な治療を行っている。

その他、他の医療機関から専門医を招へいし、睡眠外来を行っており、より専門的な治療及び睡眠薬等の使い方を学ぶことができる。

さらに特殊診療として、修正型電気けいれん療法、クロザピン薬物療法を実施している。公認心理師（臨床心理士）との協力診療、カンファレンスなどに参加して、患者の心理学的理解や心理カウンセリングを学ぶことも可能である。

精神医学は、極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会学的な

次元に加えて、実存的・哲学的問題も関与している。複雑を極める精神現象を理解して、治療するためには、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージに応じた治療技術が求められる。そのためには、脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘る領域の理解が必要である。

専攻医は、次の研究会・カンファレンス等に参加し、日常の診療技術の習得と精神疾患の病態解明の必要性を広く学ぶことができる。

1)「リエゾンスタッフによる回診と他科医師との合同カンファレンス」
2)「他診療科（高度外傷センター、緩和ケア、産科）との合同カンファレンス」
3)「島根県内の精神科医師による懇話会」
4)「中国地区内の他大学および精神科病院との合同研修会・研究会」

・週間スケジュール　島根大学医学部附属病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	電気けいれん療法 申し送り	病棟業務 申し送り	電気けいれん療法 申し送り	病棟業務 申し送り	電気けいれん療法 申し送り
午前	病棟業務 思春期外来／陪診	病棟業務 思春期外来／陪診	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午後	12：45 医局会 13：00 患者申し送り 教授回診／陪診 チームカンファレンス 医局セミナー 睡眠外来･リエゾン外来/陪診 病棟業務 論文抄読会	リエゾン回診／陪診 リエゾンミーティング リエゾン外来／陪診 病棟業務	ストレス外来･リエゾン外来／陪診 病棟業務	リエゾン外来／陪診 病棟業務	もの忘れ外来・リエゾン外来/陪診
17 時以降		EBM 研究会			

※就業時間が週 40 時間を超える場合は、当院が締結している「労働基準法第 36 条に基づく労使協定（36 協定)」に従い、専攻医との合意の上で実施される。

・年間スケジュール　島根大学医学部附属病院

４月	オリエンテーション SR1-2 研修開始 専攻医グラウンドラウンド （毎月開催） 若手早朝勉強会、医局セミナーなどの各種の研究会に参加
５月	島根県精神科医懇話会参加
６月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
７月	山陰精神神経学会参加（SR2 時には発表） 中国地区精神科教室合同研修会参加 （SR2 時には発表） 日本睡眠学会参加（任意） 島根県精神科医懇話会参加
８月	日本精神科診断学会参加（任意）
９月	島根県精神科医懇話会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
１０月	日本児童青年医学会参加（任意） 中国四国 GHP 研究会参加
１１月	日本臨床精神神経薬理学会参加 中国・四国精神神経学会参加 （SR2 時には発表） 島根県精神科医懇話会参加 日本神経精神医学会参加（任意） 日本総合病院精神医学会参加
１２月	研修プログラム管理委員会開催
１月	島根県精神科医懇話会参加
２月	医局セミナーにて症例研究発表
３月	島根県精神科医懇話会参加 中国四国 GHP 研究会参加研修 プログラム評価報告の登録
随時	関連学会への参加

（2）研修連携施設

①　医療法人青葉会　松江青葉病院

・施設形態：医療法人、民間精神科病院

・院長名：宮岡　剛

・指導責任者氏名：柴田　昌洋

・指導医人数：4 人

・精神科病床数：300 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	40	28
F1	5	8
F2	211	234
F3	197	33
F4 F50	90	7
F4 F7 F8 F9 F50	55	18
F6	6	3
その他	43	58

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

松江青葉病院は島根県庁所在地松江市に立地する 300 床の単科精神科病院である。松江市は県都であるため、各行政機関を含めた利用可能リソースが多い。また島根県では最大の人口を抱えるため、病院数、クリニック数ともに多く、精神科病院の立ち位置がどのようなものであるかを経験できる。

松江青葉病院は一般精神科医療をはじめ、児童・思春期（島根県・松江市　子供の心の診療ネットワークに参加）から老年期（日本老年精神医学会専門医制度認定施設）まで幅広く診療可能である。精神科専門医以外に日本老年精神医学会認定専門医が取得できる。また島根県高次脳機能障害・東部地域支援拠点、高次脳機能障害・松江地域支援拠点、松江市の認知症初期集中支援チームを受諾しており、外来診療、デイケア、入院医療、相談事業、ネットワーク会議等を行っている。

・週間スケジュール　松江青葉病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	申し送り	申し送り	申し送り	申し送り	申し送り
午前 9:00-12:30	外来業務 12:00 医局会 症例検討会	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
午後 13:30-17:30	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務
17:30 以降	なし	なし	なし	なし	なし

※就業時間が週 40 時間を超える場合は、当院が締結している「労働基準法第 36 条に基づく労使協定（36 協定)」に従い、専攻医との合意の上で実施される。

・年間スケジュール　松江青葉病院

４月	オリエンテーション
５月	島根県精神科医懇話会参加 ネットワーク会議参加（高次脳機能障がい）
６月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
７月	山陰精神神経学会参加 島根県精神科医懇話会参加
８月	ネットワーク会議参加（高次脳機能障がい）
９月	島根県精神科医懇話会参加 日本神経精神医学会参加（任意）
１０月	日本児童青年医学会参加（任意）
１１月	中国・四国精神神経学会参加 島根県精神科医懇話会参加 日本認知症学会参加（任意） 日本精神科医学会参加（任意） ネットワーク会議参加（高次脳機能障がい）
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会参加
２月	ネットワーク会議参加（高次脳機能障がい）
３月	島根県精神科医懇話会参加 研修プログラム評価報告書の作成

② 医療法人同仁会　こなんホスピタル

・施設形態：医療法人、民間精神科病院

・院長名：福田　賢司

・指導責任者氏名：福田　賢司

・指導医人数：2 人

・精神科病床数：147 床（稼働病床 100 床）

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	100	79
F1	70	50
F2	120	52
F3	70	42
F4 F50	63	4
F4 F7 F8 F9 F50	10	5
F6	3	0
その他	30	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

こなんホスピタルは松江市西端、宍道町で宍道湖畔に立地し、主として松江市西部･雲南市北部･出雲市東部にまたがる診療圏を背景にしています。

湖畔に立地する当院は窓の外には日本一のシジミを産み出す宍道湖が広がっています。病室からは眼下に宍道湖が広がり、季節ごとに表情を変えて気持ちを和ませてくれます。文豪小泉八雲が愛でた美しい夕景、湖上に舞うシジミ漁の小船、冬には一変して荒れ狂う波と四季折々にさまざまな顔を見ることが出来ます。そうした自然とゆったりとした広さを持つ病棟は、患者さんの心を和ませ自然治癒力を促進しているようです。

また、開かれた病院、地域とともにある病院を目指して介護医療院を併設し、訪問看護ステーションを開設して地域に出かけて必要な支援と求められるニーズの把握に努めています。

こなんホスピタルの基本理念は①生命の尊重②協調と融和③プライバシーの尊重④明るく思いやりのある対応を掲げ、100 床の精神一般病棟を運営しています。精神一般病床では約 20 年前からアルコール依存症治療プログラムを持ち、県東部のアルコール医療の最前線の一端を担っています。研修を受けた医師が 2 人、経験豊富な看護師が 10 余名、PSW2 名、公認心理師 1 名が担当しています。入院治療ではアルコール･パスや離脱症状評価を導入し、断酒会･A.A.と連携して院内断酒会、A.A.メッセージを開催してもらっています。女性依存症者も増え、月に一度は女性だけの会も開催して好評を頂いています。

近年は入院のみならず、外来治療にも積極的に取り組みをし、早期治療を目指していると

ころです。精神科でも入院医療の短縮や社会復帰、就労支援などが求められる時代になり、精神デイケア・通所リハビリ・訪問看護の拡充、ピア・サポーターや地域生活支援センターとタイアップした退院促進事業への取り組みなど先進的活動を展開しています。また、統合失調症の軽症化、うつ病の社会的認知の拡大などにより精神病の入院が減少し、多くの精神科病院が認知症やその周辺症状（BPSD）を引き受けるようになって来ました。当院にも地域のみでなく、近隣総合病院・クリニックからの期待が増え、合併症を持つ高齢者が増加して総合的診療力が涵養される場となっています。

診断確定を迅速にするため血液・尿検査など臨床検査の大部分を院内で、放射線技師によりX線CTも即座に撮影しています。高齢者の利用が増えたことも有り、老人保健施設・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所なども併設し、地域・病院・施設が相互に補完して人生の終幕を支えています。

・週間スケジュール　こなんホスピタル

	月	火	水	木	金	土
第1週	病院オリエンテーション	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	院内施設案内	外来陪診 薬剤クルズス（抗精神病薬）	アルコール・ミーティング ARP基礎講習①	病棟SST	病棟陪診	
第2週	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	休
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	集団精神療法	地域連携 薬剤クルズス（抗精神病薬）	アルコール・ミーティング 外来陪診	心理カウンセリング 疾病クルズス（統合失調症1）	合併症 症状精神病1	

	月	火	水	木	金	土
第3週	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	精神科デイケア	外来陪診
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	作業療法	病棟陪診 薬剤クルズス （感情調整剤） 院内断酒会	アルコール・ミーティング ARP 基礎講習② 	病棟陪診 疾病クルズス （統合失調症2）	精神科デイケア	
第4週	老人デイケア （通所リハビリ）	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	休
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	老人デイケア （通所リハビリ）	病棟陪診 薬剤クルズス （抗うつ薬）	アルコール・ミーティング 疾病クルズス （うつ病）	病棟陪診 疾病クルズス （認知症）	施設実習 （老人保健施設）	

	月	火	水	木	金	土
第5週	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診 地域連携	外来陪診
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	臨床検査 （心理・検体・理学）	地域連携 （しののめ寮） 疾病クルズス （双極性障害）	アルコール・ミーティング 薬剤クルズス （抗不安薬）	病棟陪診	病棟陪診 アルコールフィールドワーク	
第6週	作業療法	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	休
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	集団精神療法	病棟陪診 疾病クルズス （不安障害、身体表現性障害）	アルコール・ミーティング 薬剤クルズス （睡眠導入剤）	アルコール家族教室 病棟陪診	合併症 症状精神病２	

	月	火	水	木	金	土
第7週	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	作業療法	外来陪診
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	作業療法 薬剤クルズス （抗てんかん薬）	病棟陪診 疾病クルズス （てんかん）	アルコール・ミーティング ARP 基礎講習③	病棟陪診 疾病クルズス （発達障害①）	病棟陪診 疾病クルズス （発達障害②）	
第8週	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	外来陪診	
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
	地域連携 （訪問看護ステーション）	病棟陪診 薬剤クルズス （副作用）	アルコール・ミーティング	地域連携 （桑友、グループホーム）	病棟陪診 研修総括	

※就業時間は週 40 時間以内である

・年間スケジュール　こなんホスピタル

４月	
５月	島根県精神科医懇話会参加
６月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加
７月	島根県精神科医懇話会参加
８月	
９月	島根県精神科医懇話会参加
１０月	
１１月	島根県精神科医懇話会参加 地方精神神経学会参加・演題募集
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会参加
２月	
３月	島根県精神科医懇話会参加

③　島根県立こころの医療センター

・施設形態：公的単科精神科病院

・院長名：挟間　玄以

・指導責任者氏名：挟間　玄以

・指導医人数：4 人

・精神科病床数：224 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	60	37
F1	13	4
F2	639	143
F3	604	65
F4 F50	462	36
F4 F7 F8 F9 F50	594	39
F6	5	3
その他	9	7

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科救急・急性期治療（全般的な診療機能の向上)、児童思春期治療（専門的な領域の充実)、総合リハビリテーション機能（地域における精神保健医療福祉サービスとの連携）などを診療活動の核としながら、病院としての総合力を向上させるような体制整備に取り組んできた。当院は、次にあげるような特徴を持っており、当院での研修を通じて、精神科専門医として実践的な精神医療をおこなうための一般的な素養を身につけることが可能である。

精神科診療の臨床能力を、手厚い指導体制のもとで培うことができる。（日本精神神経学会専門医 5 名、日本精神神経学会指導医 5 名、精神保健指定医 10 名）

病床は、5 病棟 224 床で、閉鎖病棟 4（うち、1 つは精神科救急急性期医療入院料算定)、開放病棟 1（児童思春期病棟で児童・思春期精神科入院医療管理料算定）に分かれている。新規入院患者の 6 割は非自発的な入院（措置入院、医療保護入院など）であり、多彩な、また急性期から慢性期に至るまでの幅広い精神疾患への対応について研修することが可能である。

精神科救急を 24 時間体制で行っており、精神科救急・急性期治療の対象となる症例が、数多く学べる。

措置入院、応急入院、鑑定事例（医療観察法鑑定入院、刑事責任能力の鑑定）など、重篤な精神科疾患の症例が学べる。治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン治療も行っている。また、令和 6 年度から修正型電気けいれん療法（m-ECT）を導入している。各種検査、心理

検査なども行いながら多職種協働で診断や治療にあたっており、入院中から地域移行を視野に入れた援助を行っている。精神保健指定医、日本精神神経学会専門医等の資格取得に必要な症例も数多く経験することができる。

医療観察法の指定入院医療機関及び指定通院医療機関であることから、司法精神医学の研修に必要な症例についても学ぶことができる。触法精神障害者の社会復帰の支援は、複合的支援が極めて重要であり、当院では、保護観察所の社会復帰調整官などとの緊密な連携のもと、支援を行う実際を学ぶことができる。

児童思春期の症例については、児童思春期病棟での入院治療をはじめとして、外来・入院と幅広く学ぶことができる。また、病院敷地内に小学校、中学校の分校も併設されており、医療と教育との連携の重要性を学ぶこともできる。対象疾患・病態は、不登校、適応障害、神経症性障害、感情障害、統合失調症性障害、発達障害などである。臨床心理との連携も密で、心理検査、心理療法などを含め、診断から治療まで協力して行える。　平成 24 年度より、子どものこころの診療ネットワーク事業が始まり、多職種連携のもとで専門的な医療を地域で展開することの必要性についても学ぶことができる。

デイケア、精神科作業療法、訪問看護などを通じ、関係機関との円滑な連携を図りながら QOL の向上や社会復帰を支援するなど、多職種協働による精神科医療の重要性を経験することができる。

身体合併症を有する精神疾患患者の治療に関しては、鳥取大学医学部附属病院から定期的な内科医師の派遣を受けており、また院内での検査や治療が困難な場合には、近隣の総合病院精神科及び関係各科とも密接な連携を行いながら治療にあたることができる。

当院では、学会や研修への参加、発表、論文作成を推奨しており、日常臨床を学びながら、自らの専門領域や関連領域の研鑽に努めることができる。なお、日本精神科救急学会認定医制度、子どものこころ専門医制度の研修施設となっており、それぞれの資格取得も可能である。

・週間スケジュール　島根県立こころの医療センター

	月	火	水	木	金	土
午前	外来診察（予診／診察陪席） 一般外来、思春期外来など	外来診察（予診／診察陪席） 一般外来、思春期外来など	外来診察（予診／診察陪席） 一般外来、思春期外来など	外来診察（予診／診察陪席） 一般外来、思春期外来など	外来診察（予診／診察陪席） 一般外来、思春期外来など m-ECT 実施	
午後	医局会 事例検討 （13 時～）	m-ECT 実施	救急当番	思春期症例トリアージ＆カンファレンス（13 時～）		島根県精神科医懇話会（隔

	病棟診察 カンファレンス、支援会議など	病棟診察 カンファレンス、支援会議など	病棟診察 カンファレンス、支援会議など	病棟診察 カンファレンス、支援会議など	病棟診察 カンファレンス、支援会議など	月）
	適宜ＳＳＴ、ＣＶＰＰＰ、作業療法、デイケアプログラム、 各種の院内研修会などに参加					
17時以降			思春期事例検討会（月１回）			

※就業時間は週 40 時間以内である

・年間スケジュール　島根県立こころの医療センター

４月	オリエンテーション
５月	島根県精神科医懇話会
６月	日本精神神経学会学術総会 日本産業精神保健学会 日本老年性精神医学会
７月	山陰精神神経学会 島根県精神科医懇話会
８月	全国自治体病院協議会精神科特別部会総会・研修会 夏期休暇
９月	島根県精神科医懇話会
１０月	日本児童青年精神医学会 中国・四国精神神経学会 日本アルコール関連問題学会 日本箱庭療法学会
１１月	日本総合病院精神医学会 島根県精神科医懇話会
１２月	日本精神科救急学会
１月	島根県精神科医懇話会
２月	全国児童青年精神科医療施設協議会研修会
３月	島根県精神科医懇話会

④　医療法人同仁会　海星病院

・施設形態：医療法人、民間精神科病院

・院長名：西田　朗

・指導責任者氏名：河野　公範

・指導医人数：2 人

・精神科病床数：166 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	66	46
F1	17	3
F2	276	161
F3	125	28
F4 F50	7	7
F4 F7 F8 F9 F50	69	11
F6	2	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

海星病院精神科は、出雲圏域唯一の民間単科精神科病院である。そのため慢性の難治かつ処遇困難な症例が多く、行政や福祉と密に連携をとり、多職種チームを構成して、退院支援や地域生活支援を積極的に行っている。一方で、輪番制での精神科救急にも参加しているため、精神科救急の臨床経験や、措置入院症例の経験も可能である。

・週間スケジュール　海星病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	患者申し送り ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ			患者申し送り ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	
9:00-12:00	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
12:00-12:30	ﾁｰﾑｶﾝﾌｧﾚﾝｽ				
13:00-17:15	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
17:45-18:30		抄読会			

※就業時間は週 40 時間以内である

・年間スケジュール　海星病院

４月	オリエンテーション
５月	島根県精神科医懇話会　参加
６月	日本精神神経学会総会　参加 日本老年精神医学会　参加（任意）
７月	山陰精神神経学会　参加 日本睡眠学会参加　参加（任意） 島根県精神科医懇話会　参加
８月	日本精神科診断学会　参加（任意）
９月	中国地区精神科教室合同研修会　参加 島根県精神科医懇話会　参加 日本生物学的精神医学会　参加（任意） 日本神経精神医学会　参加（任意）
１０月	日本児童青年医学会　参加（任意）
１１月	日本臨床精神神経薬理学会　参加（任意） 中国・四国精神神経学会　参加 島根県精神科医懇話会　参加
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会　参加
２月	
３月	島根県精神科医懇話会　参加

⑤　特定医療法人恵和会　石東病院

・施設形態：特定医療法人、民間精神科病院

・院長名：安田　英彰

・指導責任者氏名：安田　英彰

・指導医人数：3 人

・精神科病床数：168 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	126	82
F1	27	17
F2	187	100
F3	174	26
F4 F50	88	6
F4 F7 F8 F9 F50	1	0
F6	3	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

石東病院は高齢化先進地域にあり老年精神医学関連の症例は多く勉強できます。併設の介護療養型医療施設、老人保健施設、精神科デイケアでの体験も可能です。

・週間スケジュール　石東病院

	月	火	水	木	金
午前	病棟研修 デイケア研修	外来研修	外来研修	病棟研修 デイケア研修	病棟研修
午後	文献抄読 病棟診察	病棟診察	病棟診察 ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ研修	病棟診察 勉強会	病棟診察 勉強会 症例検討会

※就業時間は週 40 時間以内である

・年間スケジュール　石東病院

４月	オリエンテーション
５月	島根県精神科医懇話会参加
６月	日本精神神経学会総会参加（任意）
７月	山陰精神神経学会参加 島根県精神科医懇話会参加
８月	
９月	島根県精神科医懇話会参加
１０月	
１１月	日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 中国・四国精神神経学会参加（任意） 島根県精神科医懇話会参加
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会参加
２月	
３月	島根県精神科医懇話会参加 研修プログラム評価・総括

⑥　社会医療法人清和会　西川病院

・施設形態：　社会医療法人、民間精神科病院

・院長名：　松本　貴久

・指導責任者氏名：　松本　貴久

・指導医人数：5 人　非常勤精神科指導医 1 人

・精神科病床数：402 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	367	177
F1	108	41
F2	444	298
F3	473	101
F4 F50	265	32
F4 F7 F8 F9 F50	21	49
F6	23	11
その他	160	16

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

島根県西部地区の地域中核病院として老年期から児童思春期まであらゆる年齢層の難治重症例からソフトな症例まで幅広い患者層に対応している。救急症例も数多く経験でき（2018 年度の県精神科救急体制整備事業における調査によると島根県内では救急外来件数、入院件数ともに県内 1 位である）、医療観察法の鑑定入院および指定通院機関でもあって司法精神医学の経験も可能である。認知症疾患治療センター（地域型）、アルコール依存症治療地域拠点機関にも指定されている。

病棟の個室率は 56%で、全国にさきがけて個室開放病棟を立ち上げた。社会生活技能訓練（SST）にも先駆的に取り組み、SST 認定講師である医師の指導の下、コリーダーの経験ができる。

また、集団認知行動療法の手法を取り入れたアルコール依存症のリハビリテーションプログラムや統合失調症・気分障害の心理教育プログラム（IMR）のリーダーの経験も可能である。その他、気分障害のリワークプログラム、NEAR や SCIT などの認知リハビリテーション、WRAP、マインドフルネスなど多彩なプログラムを行っている。

多職種チーム医療についても精力的にとりくみ、包括型地域生活支援プログラム（ACT）に準じたチーム医療や関連する福祉施設職員も含めた法人内全職員（時には外部機関の職員も含む）が参加可能な合同カンファレンスなどを行っている。

その他特徴的な取り組みとしては、個別的就労支援プログラム（S・IPS）を行っている。

法人をあげて就労支援に取り組み、ピアサポーター制度も導入しているところである。

・週間スケジュール　西川病院

	月	火	水	木	金
午前	外来初診	診療スタッフ会 外来初診	診療スタッフ会 外来初診	診療スタッフ会 SST 心理教育	診療スタッフ会 外来初診
午後	病棟診療 新患 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	医局会 合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ病棟診療 （訪問診療）	精神科ﾃﾞｲｹｱ 個別ｽｰﾊﾟｰﾋﾞｼﾞｮﾝ	病棟診療 ﾐﾆﾚｸﾁｬｰ	ｱﾙｺｰﾙﾐｰﾃｨﾝｸﾞ 病棟診療

※医局会には、英文抄読会、ケース検討会、ｴｸｽﾊﾟｰﾄﾄﾞｸﾀｰﾚｸﾁｬｰを含む

※就業時間が週 40 時間を超える場合は、当院が締結している「労働基準法第 36 条に基づく労使協定（36 協定)」に従い、専攻医との合意の上で実施される。

・年間スケジュール　西川病院

４月	新人オリエンテーション
５月	島根県精神科医懇話会
６月	日本精神神経学会学術総会
７月	島根県精神科医懇話会 山陰精神神経学会
８月	
９月	島根県精神科医懇話会
１０月	
１１月	島根県精神科医懇話会
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会
２月	院内研究発表会
３月	

⑦　社会医療法人正光会　松ヶ丘病院

・施設形態：社会医療法人、民間精神科病院

・院長名：坪内　健

・指導責任者氏名：坪内　健

・指導医人数：7 人

・精神科病床数：215 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	191	163
F1	21	11
F2	155	134
F3	202	51
F4 F50	170	31
F4 F7 F8 F9 F50	211	42
F6	7	1
その他	30	9

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

担当者：院長　坪内　健
連絡先：0856-22-8711（内線 270）　事務部長　豊田　政幸
教育に関する委員会：研修検討委員会
研修指導医：坪内　健（院長）
　　笠原　恭輔（診療部長）
外来患者数：100 名／日

当院の主な治療対象は、益田圏域（益田市、津和野町、吉賀町）と山口県萩市東部の患者さんです。益田圏域の精神科入院病床は当院にしかありませんので、あらゆる精神疾患の入院治療を経験できます。また、周辺の総合病院には精神科がありませんので、コンサルテーション・リエゾン精神医学の面でも圏域で重要な役割を担っています。

１．精神療法、力動精神医学を重視

常勤精神科医８名の内７名が精神保健指定医です。その内精神神経学会の専門医・指導医は７名です。精神療法的アプローチは、一般的な支持的精神療法が中心ですが、精神病理や力動精神医学的な考え方をする医師が多く、病院の治療風土は全般的に精神療法を重視する伝統があります。したがって、医師以外のスタッフも心理的援助を重視しています。

２．老年精神医学

認知症疾患医療センターを運営しています。また益田市の認知症初期集中支援チームにも

参画しており、初期治療から関与しています。入院病棟で看取りまですることもあるので、幅広く老年精神医学の実践が可能です。また老年精神医学会専門医制度における認定施設ですので、老年精神医学会の専門医取得に有利です。

３．児童思春期精神医学

児童相談所、子ども家庭支援課、益田養護学校、養護教諭、子ども若者支援センター、SSW等とのネットワークも密で、圏域の子どもの治療も多く行っています。要保護児童対策地域協議会の構成機関でもあるので、市内の支援者と連携関係にあり、個別ケース検討会議に出席することもあります。島根県の子どもの心の診療ネットワークにも参画し、ケース相談も受けています。月２回小児科医による児童発達外来も行っており、院内で小児科と連携できます。関連施設では、放課後児童デイサービスも運営しています。

４．依存症治療

ギャンブル依存症の指定医療機関です。県西部はもとより、県外からの患者も受診します。島根県立心と体の相談センターとも連携し、島根県が開発した SAT-G というギャンブル依存症治療プログラムを用いて治療を行っています。またアルコール依存症治療では、院内の ARP（アルコール・リハビリテーション・プログラム）を運用しています。月１回院内 AA も開催しています。

５．高次脳機能障害

島根県は高次脳機能障害治療の先進地です。当院は県から西部地域支援拠点の指定を受けており、東部、中部の拠点機関とのネットワークも密です。このネットワークを中心として島根県は精神科による高次脳機能障害のフォローアップ体制の構築が進んでいます。

６．コンサルテーション・リエゾン精神医学

圏域の病院には精神科がありませんので、身体疾患の治療中に生じた精神医学的問題のコンサルトを受けることが多いです。往診して治療に当たることもあります。益田圏域は病院間の連携がスムーズで、お互いが役割意識を持ちながら連携しています。精神科救急も受けているので、PEEC 研修も充実させていく方針です。

７．精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの実践

地域の幅広い支援者とのネットワークが構築されており、あらゆる地域精神医学的な取り組みに関与しています。訪問診療・訪問看護にも積極的で、アウトリーチの実践も日常業務の一部です。益田保健所、市町役場、院外の支援機関との連携も密にとっています。地域全般を巻き込んだ総合的な精神保健活動を体験できます。

・週間スケジュール　松ヶ丘病院

	月	火	水	木	金
午前 8:00 ～ 12:00	外来（再診）	外来（初診）	病棟(精神療法等)	外来（再診）	外来（再診）
午後 13:00 ～ 17:00	病棟(精神療法等)	病棟(精神療法等) 症例検討会	病棟(精神療法等)	病棟(精神療法等) 施設への訪問診療(第4木曜日)	病棟(精神療法等)
17:00 以降		Dr.ｺﾒﾃﾞｨｶﾙ勉強会(第3火曜日)			

＜その他行事＞

デイケア Dr.ミーティング（月末)、入退院推進会議（月末)、精神相談（保健所外出）

※就業時間が週 40 時間を超える場合は、当院が締結している「労働基準法第 36 条に基づく労使協定（36 協定)」に従い、専攻医との合意の上で実施される。

・年間スケジュール　松ヶ丘病院

４月	
５月	島根県精神科医懇話会　参加
６月	日本精神神経学会学術総会　参加
７月	
８月	
９月	島根県精神科医懇話会　参加
１０月	
１１月	
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会　参加
２月	
３月	

⑧　医療法人コスモ会　奥出雲コスモ病院

・施設形態：医療法人、民間精神科病院

・院長名：今岡健次

・指導責任者氏名：今岡大輔

・指導医人数：1 人

・精神科病床数：100 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	167	44
F1	60	9
F2	152	73
F3	174	14
F4 F50	143	7
F4 F7 F8 F9 F50	45	5
F6	9	0
その他	0	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

島根県雲南圏域(雲南市、奥出雲町、飯南町)で唯一の精神科病院ですので、多彩な症例を幅広く経験することが可能です。当院は中山間地域に立地し、地域に根ざした精神医療を提供すべく、地域精神医療に力を入れております。多彩な精神疾患の患者様、急速な高齢化とともに増加する認知症患者様の外来・入院治療を経験します。患者様の生活の場へ足を運ぶ訪問看護とともに、行政や福祉と連携しながら外来・入院から退院後の支援・医療を通して、地域に必要とされる精神医療を経験することが可能です。

・週間スケジュール　奥出雲コスモ病院

	月	火	水	木	金
午前	・外来診察（予診、診察陪席） ・病棟業務	・外来診察（予診、診察陪席） ・病棟業務	・外来診察（予診、診察陪席） ・病棟業務	・外来診察（予診、診察陪席） ・病棟業務	・外来診察（予診、診察陪席） ・病棟業務
午後	・病棟業務	・特老ホーム診察陪席 ・病棟業務	・病棟多職種カンファレンス参加 ・アルコールミーティング参加(第2、4週) ・病棟業務	・デイケア参加 ・病棟業務	・外来多職種カンファレンス参加 ・病棟業務

※就業時間は週 40 時間以内である

・年間スケジュール　奥出雲コスモ病院

４月	オリエンテーション
５月	島根県精神科医懇話会
６月	日本精神神経学会学術総会
７月	山陰精神神経学会 島根県精神科医懇話会
８月	
９月	島根県精神科医懇話会
１０月	
１１月	中国・四国精神神経学会 島根県精神科医懇話会
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会
２月	
３月	精神科精神科医懇話会 研修プログラム評価報告書の作成

⑨　岡山県精神科医療センター

・施設形態：公的単科精神科病院

・院長名：来住　由樹

・指導責任者氏名：宮藤　智史

・指導医人数：15 人

・精神科病床数：255 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	199	17
F1	678	298
F2	1538	540
F3	673	218
F4 F50	616	79
F4 F7 F8 F9 F50	682	85
F6	150	8
その他	958	146

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

岡山県精神科医療センターは、24 時間 365 日の精神科救急、「断らない医療」を実践している。

児童から高齢者まで全ての年代の精神的危機に対応しており、幅広い領域の精神疾患の診断と治療を経験し、知識と技術を身につけることができる。また岡山県子どものこころ拠点病院、岡山県依存症治療拠点病院・災害拠点精神科病院に指定されており、難治性精神疾患地域連携拠点（クロザピン・電気けいれん療法）でもある。岡山市より身体・精神合併症救急連携事業、岡山県より精神科在宅支援(アウトリーチ)事業・地域移行促進センター事業・発達障害児（者）支援医師研修事業を受託しており、病病・病診連携を重視し、医療ネットワークの中で中核的役割を果たしている。訪問診療・訪問看護にも取り組み、相談支援事業所を設置し、在宅医療にも取り組んでいる。

精神的危機に直面している人に共感し、生物・心理・社会・尊厳など包括的視点を持ち、患者に正面から向き合うことができる医師を輩出したい。全てのライフステージでの危機状態に対応できる精神科医になれるよう、指導医も一緒に悩み切磋琢磨する。当プログラムは、精神科医療の最前線にある基幹施設と連携施設で、精神科救急を皮切りに、児童・思春期、依存症（アルコール・薬物依存症など）、司法精神医療、リエゾン精神医療、在宅精神医療、認知症など幅広い領域の現場に身をおきながら、精神科医としての基本的な素養を身につける。

・週間スケジュール　岡山県精神科医療センター

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td>7:30-8:30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>輪読会</td><td colspan="2" rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>8:30-9:00</td><td colspan="5">病棟申送りカンファ</td></tr>
<tr><td>9:00-9:30</td><td colspan="5">入退院カンファ／ベットコントロール・カンファ</td></tr>
<tr><td>午前</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>ECT</td><td>病棟業務</td></tr>
<tr><td rowspan="2">午後</td><td>病棟業務</td><td rowspan="2">病棟業務</td><td rowspan="2">外来業務</td><td>病棟別カンファ</td><td rowspan="2">病棟業務</td><td rowspan="3" colspan="2">日直
（月１回）</td></tr>
<tr><td>新規入院症例検討</td><td>病棟業務</td></tr>
<tr><td rowspan="2">17:15-</td><td></td><td></td><td>隔週　脳波勉強会
隔週　医局会</td><td>抄読会
症例検討会</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">当直（月 3-4 回）</td></tr>
</table>

※就業時間が週 40 時間を超える場合は、当施設が締結している「労働基準法第３６条に基づく労使協定（36 協定)」に従い、専攻医との合意の上で実施される。
原則として、週 40 時間を超えるスケジュールについては自由参加とする。

・年間スケジュール　岡山県精神科医療センター

４月	オリエンテーション SR1 研修開始 /　SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 エッセンスカンファレンス
５月	エッセンスカンファレンス
６月	日本精神神経学会学術総会参加 研修プログラム管理委員会開催 アルコール依存症臨床医等研修 テーマ別カンファレンス
７月	ECT 研修会参加、依存症研修会 テーマ別カンファレンス
８月	認知行動療法研修、デイケア・訪問往診等地域医療研修会 テーマ別カンファレンス
９月	研究倫理講習会、クロザピン治療研究会 テーマ別カンファレンス
１０月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 児童思春期精神医学研修会 テーマ別カンファレンス
１１月	障害福祉サービス・在宅支援研修 うつ病の認知療法・認知行動療法ワークショップ テーマ別カンファレンス
１２月	研修プログラム管理委員会開催 司法精神医学研修、テーマ別カンファレンス
１月	児童虐待支援者研修会 テーマ別カンファレンス
２月	動機付け面接研修会、研究倫理講習会 テーマ別カンファレンス
３月	SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 認知行動療法研修 テーマ別カンファレンス
その他	精神科関連の学会、国立精神神経医療研究センターでの研修会等を通じた研修を積極的に参加する。

⑩　社会医療法人昌林会　安来第一病院

・施設形態：社会医療法人、民間総合病院

・院長名：杉原　勉

・指導責任者氏名：片山　征爾

・指導医人数：6 人

・精神科病床数：161 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	357	163
F1	49	21
F2	405	175
F3	202	88
F4 F50	63	27
F4 F7 F8 F9 F50	6	14
F6	15	5
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当法人は医療の向上、社会福祉への貢献、公的な運営を評価されて平成 21 年 1 月に日赤、済生会に準じた公的医療機関に位置づけられた「社会医療法人」に認定されました。平成 22 年 1 月には、地域における住民の医療を確保することを目的として指定される地域医療拠点病院となりました。「安来保健医療福祉の街」を構築し、「安心して暮らせる地域社会の実現」を目指し、職員一同良質なサービスの提供に努めております。現在、応急入院指定病院の指定を受けています。

数年来、安来市の地域医療充実のため、精神科医、脳神経外科医、神経内科医、乳腺外科医等、常勤医の招へいに努め、現在、6 名の精神科医が常勤医として勤務しています。平成 16 年 4 月から臨床研修病院（協力型）として、研修医を受け入れてきました。他に教育研修指定病院として認定を受け、医療従事者の育成に努めています。

当院は、日本精神神経学会が認定する精神科専門医制度における研修施設であり、学会より認定された指導医も在籍しています。精神保健指定医等の資格取得のための支援を充実させており、経験豊富な常勤医が担当指導医として支援しています。指導医からだけでなく、他科の優れた医師からも気軽にアドバイスを受けることのできる職場環境です。

外来では、精神科専門外来として思春期、アルコール、うつ病、物忘れ、てんかん等の外来を行っており、それぞれ専門の医師が担当しています。

平成 27 年 10 月に島根県から指定を受けて認知症疾患医療センターを開設していました。今

後の重要課題である認知症についての相談窓口として、様々な問い合わせに対応しています。

病棟は、許可病床数 330 床のうち、精神科 146 床（精神科急性期治療病棟 42 床、療養病棟 60 床、認知症治療病棟 44 床、）と一般科 184 床（地域包括ケア病棟 88 床、回復期リハ病棟 50 床、療養病棟 46 床）を整備しているので、患者様の病状にあった病棟での治療が可能です。また、診療には、日本精神科病院協会が認定する日精協認定看護師や 24 名の精神保健福祉士等、多職種間の連携により、治療効果を上げています。

従来から取り組んでいる脳血管疾患リハビリ、運動期リハビリの他に、今後は循環器内科医、呼吸器内科医等と協力し、心大血管リハビリ、呼吸器リハビリ、そしてがん患者リハビリにも取り組み、島根県がん情報提供促進病院として幅広いリハビリの提供に努めていきます。そして、心と体のトータルケアを実践するために、医の倫理と人権を尊重した医療を心掛け、また、研修医、医学生、看護学生、作業療法、理学療法などの実習の場を提供して、当院の特徴のひとつである、「地域に根ざした医療」の現場を体験できることではないかと考えています。

また、「専門的知識を持つ」、「相手の気持ちを理解する」、「偏見を持たない」、「自らの健康を管理する」をモットーに地域の医療に貢献したいと考えています。

・週間スケジュール　安来第一病院

	月	火	水	木	金
8:30-10:00	外来予診	アルコール ミーティング	外来予診	外来予診	アルコール ミーティング
10:00-12:30	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務
13:00-13:30	医局会 薬事委員会		カンファレンス		
13:30-15:30	病棟業務 リエゾン	作業療法	病棟業務 リエゾン	デイケア	病棟業務 リエゾン
15:30-17:30	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

※就業時間が週 40 時間を超える場合は、当院が締結している「労働基準法第 36 条に基づく労使協定（36 協定）」に従い、専攻医との合意の上で実施される。

・年間スケジュール　安来第一病院

４月	オリエンテーション
５月	島根県精神科医懇話会参加（任意）
６月	日本精神神経学会学術総会参加
７月	山陰精神神経学会参加・演題発表（任意） 島根県精神科医懇話会参加（任意）
８月	
９月	島根県精神科医懇話会参加（任意）
１０月	
１１月	中国・四国精神神経学会参加（任意） 島根県精神科医懇話会参加（任意）
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会参加（任意）
２月	
３月	研修プログラム評価報告書の作成 島根県精神科医懇話会参加（任意）

⑪　松江市立病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：久留　一郎

・指導責任者氏名：板倉　征史

・指導医人数：1 人

・精神科病床数：50 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	102	20
F1	92	15
F2	319	84
F3	495	62
F4 F50	212	19
F4 F7 F8 F9 F50	84	9
F6	6	1
その他	86	13

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

松江市立病院は全 373 床の地域に根ざした総合病院です。その中にあって精神科は公立総合病院の中では珍しく閉鎖病棟 50 床を有し、デイケアも併設しています。身体合併症を有した精神疾患は無論のこと、重症の統合失調症や気分障害から神経症性障害やストレス関連障害に至るまで、広範囲の精神疾患について研修できます。地域との連携を図り、思春期から老年期までの幅広い年齢層を受け入れています。さらに総合病院の性質上多種多様の人が救急受診します。自殺企図や薬物関連、幻覚妄想やパニック発作など精神科救急も豊富です。精神保健指定医および日本精神神経学会認定精神科専門医の資格をとる症例には事欠きません。さらに当院精神科では日本総合病院精神医学会専門医制度研修施設となっているため、日本総合病院精神医学会認定専門医（一般病院連携精神医学専門医）も取得可能です。

総合病院の一員として研修する過程で、身体疾患も視野に入れながら診断・治療を考えていく姿勢が自然と身につくのも特長です。病棟業務、外来業務、精神科救急を体系的に研修することになりますが、大病院とは異なり、他科医師・他職種のスタッフと顔の分かる付き合いができる環境にあるのも魅力の一つでしょう。当院には緩和ケア病棟もあり、2017 年にはがんセンターも開設された。幅広い観点で日々の臨床に向き合い、専門外の知識を得ることも可能です。総合病院特有の他科との連携（コンサルテーション・リエゾン精神医学）も修得し、さらに臨床能力を養うばかりではなく、上級医の指導の下に学会・論文発表を行うことも目標としています。

・週間スケジュール　松江市立病院

	月	火	水	木	金
午前	外来（再診）	リエゾン診察 急患当番	外来（再診）	リエゾン診察 急患当番	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務 急患当番 リエゾンカンファレンス	病棟業務	急患当番 病棟業務 病棟カンファレンス	病棟業務 精神科医師カンファレンス
17時以降	特になし（任意で院外の勉強会・研究会等に参加可能）				

・上記は専攻医 2 年目以上の業務で、専攻医 1 年目の場合は外来（再診）の担当はなく、初診患者の予診をとり指導医の本診に陪席する

・外来デイケア、緩和ケアチームカンファレンスにも希望あれば参加可能

・就業時間は週 40 時間以内である

・年間スケジュール　松江市立病院

４月	オリエンテーション
５月	
６月	日本精神神経学会学術総会
７月	山陰精神神経学会学術総会
８月	全国自治体病院協議会精神科特別部会総会・研修会
９月	
１０月	中国四国 GHP 研究会 中国四国精神神経学会
１１月	総合病院精神医学会学術総会
１２月	
１月	
２月	
３月	中国四国 GHP 研究会
隔月（奇数月）	島根県精神科医懇話会

※学会、研究会への参加は任意

⑫　松江赤十字病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：大居　慎治

・指導責任者氏名：石王　覚

・指導医人数：1 人

・精神科病床数：45 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	165	18
F1	100	11
F2	330	48
F3	460	80
F4 F50	250	31
F4 F7 F8 F9 F50	55	0
F6	14	4
その他	60	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当科では診療所からの統合失調症・うつ病・ストレス性障害・認知症・アルコール依存症など多彩な精神障害に対する専門的診断や入院治療の受け入れ、他病院からの身体合併症入院治療の受け入れ、救急医療～入院治療の受け入れ等、「地域医療機関との連携」を大切にするとともに、院内においては他科入院中に生じる精神変調への治療援助（リエゾン精神医療）や緩和医療におけるメンタルケアを積極的に行い、院内外の多様な要請に対し「チーム医療による質の高い精神医療」を提供しています。

平成 24 年から新病棟に移転しましたが、自由で開放的な療養環境（開放病棟）とし、個室も 5 床用意しました。誰でも気軽に声をかけられるようにナースステーションはオープンカウンターとし、少しでも自然を感じ心和んで頂けるようデイルームにテラスを併設し、紅白のハナミズキとともに四季折々の草花を観賞して頂くことができます。患者さんの回復する力を大切に、家族と協力しながら、患者・家族・医療者が三位一体となった入院治療を提供しています。

また、当院は研修指定病院であり、医学生・初期臨床研修医が当科にも数多く来られますが、学ぶ人の主体性を尊重しながら「心で感じ、自ら考え、行動し、共に自己成長できる」実習・研修を心がけています。

＜　当科の研修特徴　＞

1）認知症・A1 依存症・統合失調症・うつ病等幅広い精神障害の治療経験ができます。

2）外来・入院・ＥＲ・リエゾン・地域活動支援等多彩な診療場面の経験ができます。

3）緩和医療にも積極的に関わっており、他科と連携した統合医療の経験ができます。

4）チーム医療を大切にしており、スタッフ教育・コミュニケーション推進を目的に精神科レクチャーとワークショップを開催しています。

・週間スケジュール　松江赤十字病院

	月	火	水	木	金	土
午前	外来診療	早朝 Meeting 病棟診察	外来診療	外来診療	外来診療	
午後	リエゾン	病棟診察	外来診療	緩和ケア リエゾン	病棟診察	島根県精神科医懇話会 （隔月）
17 時以降	月曜家族教室 （第1）	Dr.Conference 行動制限検討委員会（第1） 精神科安全推進委員会（第1） DrNs.Conference（第2） 医局会・集談会（第3） キャンサー・ボード（第4）	精神科会議 （隔月） 薬物療法検討会 （第2）	病棟断酒会 （第2・4）		

※就業時間は週 40 時間以内である

・年間スケジュール　松江赤十字病院

＜　島根県圏域の研究会・地域精神医療への参加　＞

＊島根県精神科医懇話会への参加・研究発表　（隔月開催）
＊松江安来圏域精神科懇話会　（年４回開催）
＊松江保健所心の相談業務　（年数回）

＜　学会・研究会への参加　＞

＊日本精神神経学会への参加・研究発表　（６月開催）
＊日本緩和医療学会への参加・研究発表　（６月開催）
＊全日本赤十字病院精神科連絡協議会への参加・研究発表　（６月開催）
＊山陰精神神経学会への参加・研究発表　（７月開催）
＊中四国アルコール医療研究会への参加・研究発表　（９月開催）
＊総合病院精神医学会　（１１月開催）
＊山陰臨床懇話会　（１２月開催）

⑬　島根県立中央病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：小阪　真二

・指導責任者氏名：森﨑　洋平

・指導医人数：3 人

・精神科病床数：28 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	130	37
F1	62	11
F2	200	39
F3	282	40
F4 F50	513	58
F4 F7 F8 F9 F50	41	4
F6	3	3
その他	48	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当科は、地域の中心医療機関である総合病院に属し、小学生から高齢者まで様々な患者が受診する。新患数は年間約 1300 名（うち入院中他科紹介が約 500 名）で、統合失調症、気分障害はもとより、認知症を始めとする器質性精神疾患、摂食障害、神経症性障害に至るまで多彩な症例を有する。

他科からの紹介患者は、コンサルテーション・リエゾン精神医学の側面を有しており、せん妄のコントロールや身体疾患罹患に伴う不安への介入などを他科医師などと連携を図りながら積極的に行っている。また当院が高度救命救急センターを有していることもあり、自殺企図後の精神医学的介入や精神疾患患者が身体合併症で入院した場合の精神症状コントロールも行っている。

上記のような特徴を有するため、当科で研修を行うことで幅広く精神科臨床を学ぶことが可能である。

・週間スケジュール　島根県立中央病院

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟診察	外来診察（予診／診察陪席）	外来診察（予診／診察陪席）	病棟診察	外来診察（予診／診察陪席）	
午後	リエゾン 指導医とケースカンファレンス	リエゾン病棟診察	リエゾン病棟診察	リエゾン	リエゾン病棟診察 精神科内カンファレンス	島根県精神科医懇話会（隔月）
17 時以降				院内勉強会		

※就業時間が週 40 時間を超える場合は、当院が締結している「労働基準法第 36 条に基づく労使協定（36 協定）」に従い、専攻医との合意の上で実施される。

・年間スケジュール　島根県立中央病院

４月	オリエンテーション
５月	島根県精神科医懇話会
６月	日本精神神経学会学術総会
７月	山陰精神神経学会・島根県精神科医懇話会
８月	夏期休暇
９月	島根県精神科医懇話会
１０月	中国四国精神神経学会
１１月	島根県精神科医懇話会
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会
２月	
３月	島根県精神科医懇話会

⑭　隠岐広域連合立隠岐病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：徳家　敦夫

・指導責任者氏名：　有田　茂夫

・指導医人数：1 人

・精神科病床数：22 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	360	16
F1	36	6
F2	135	19
F3	268	30
F4 F50	268	0
F4 F7 F8 F9 F50	46	11
F6	2	0
その他	79	5

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院では離島の精神科医療を学ぶことができる。精神科救急を 24 時間体制で行っており、精神科救急・急性期治療の対象となる症例が多く学べる。精神科病棟は 22 床（13 対 1、入院基本料）で、任意入院と医療保護入院による治療を行っており、入院患者には退院支援会議を開催し、スムーズな退院の援助を行っている。また、アルコール依存症の患者には入院治療で断酒教育や外来患者にアルコールミーティングを開催している。身体合併症を有する精神疾患患者の治療に関しては、内科、外科、整形外科等の身体科の医師と共同で治療を行っている。リエゾン精神医学では、他科入院中の症状性精神障害や器質性精神障害の治療を多数経験できる。

さらに、看護師、精神保健福祉士、作業療法士による訪問看護を行っており、地域関係機関を含めたケース会議を行うなど、他職種共同による精神科医療や地域関係機関の連携の重要性を経験することができる。令和 5 年度からは精神神経科の常勤医が 3 名体制になり、より手厚い指導体制となる。

・週間スケジュール　隠岐広域連合立隠岐病院

	月	火	水	木	金
午前	外来診察	外来診察	外来診察	アルコール ミーティング	外来診察
午後	病棟カンファ レンス	病棟診察	病棟診察	病棟診察 外来診療	病棟診察 外来診療

※就業時間が週 40 時間を超える場合は、当院が締結している「労働基準法第 36 条に基づく労使協定（36 協定）」に従い、実施される。

・年間スケジュール　隠岐広域連合立隠岐病院

４月	オリエンテーション
５月	島根県精神科医懇話会
６月	日本精神神経学会学術総会
７月	山陰精神神経学会 島根県精神科医懇話会
８月	全国自治体病院協議会精神科特別部会総会・研修会
９月	島根県精神科医懇話会
１０月	中国・四国精神神経学会 日本アルコール関連問題学会
１１月	島根県精神科医懇話会
１２月	日本精神科救急学会
１月	島根県精神科医懇話会
２月	―
３月	島根県精神科医懇話会

⑮　こころの診療所細田クリニック

・施設形態：民間診療所

・院長名：細田　眞司

・指導責任者氏名：細田　眞司

・指導医人数：1 人　非常勤精神科指導医 1 人

・精神科病床数：0 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	209	0
F1	72	0
F2	231	0
F3	635	0
F4 F50	388	0
F4 F7 F8 F9 F50	215	0
F6	58	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

患者（F0-9）の生活に密着した精神科診療を経験することができる。精神科外来診療所の親密な雰囲気のセッティングでの治療を経験する。指導医とのマンツーマンの指導により、精神科診断・見立て、治療方針の組み立て、精神療法の機微、薬物療法の考え方、様々な社会的な支援の利用、家族関係への関与、職場・学校などへのアプローチなどを習得することができる。産業メンタルヘルス、他科診療所との連携、教育現場での危機対応、高齢者施設での精神科対応、保健所との連携を学習、経験する。また、症例にそった文献、書籍を推薦し、熟読する時間を確保し、その内容について指導医とのディスカッションを行う。症例報告等を学会発表する。また、臨床研究のデザインの作り方、論文の書き方等について指導を受けることができる。

研修形態は、常勤、非常勤のいずれでも可能である。また、期間についても、研修全体のバランスを考慮して柔軟に対応が可能である。

・週間スケジュール　こころの診療所細田クリニック

	月	火	水	木	金
午前	外来診察 （予診）	外来診察 （予診）	外来診察 （予診）	外来診察 （予診）	自己学習
	指導医診察 陪席	指導医診察 陪席	指導医診察 陪席	指導医診察 陪席	もしくは 外来診察 （継続ケース）
午後	心理検査 陪席	事業所メンタルヘルス陪席	特別老人ホーム診察陪席	外来集団療法参加	症例検討
		もしくは 地域カンファレンス参加	もしくは 自立支援･介護保険等の審査等への陪席		
	外来診察 （継続症例）	外来診察 （継続症例）	もしくは 措置診察 陪席		外来診察 （継続ケース）
		自己学習		自己学習	
17 時以降		抄読会		外部講師講演会参加	

※就業時間は週 40 時間以内である

・年間スケジュール　こころの診療所細田クリニック

４月	
５月	島根県精神科医懇話会
６月	日本精神神経学会学術総会 日本精神神経科診療所協会学術総会
７月	山陰精神神経学会 島根県精神科医懇話会
８月	日本精神神経学会サマースクール
９月	島根県精神科医懇話会
１０月	島根県キャリアアップネットワーク研修会
１１月	日本総合病院精神医学会 島根県精神科医懇話会
１２月	島根県キャリアアップネットワーク研修会
１月	島根県精神科医懇話会
２月	島根県キャリアアップネットワーク研修会 松江安来圏域精神科医療連絡協議会
３月	日本社会精神医学会 日本集団精神療法学会 島根県指定医会議 島根県精神科医懇話会参加

⑯　とみさわクリニック

・施設形態：民間診療所

・院長名：富澤　治

・指導責任者氏名：富澤　治

・指導医人数：1 人

・精神科病床数：0 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	2	0
F1	4	0
F2	26	0
F3	144	0
F4 F50	120	0
F4 F7 F8 F9 F50	33	0
F6	4	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

2004 年から 10 年間東京都新宿区で開業していた経験から摂食障害、発達障害、人格障害、不登校などの精神分析的心理療法に力を入れていています。日本臨床芸術療法協会の経験を生かして芸術療法を用いた心理療法も必要に応じて行っています。また、地域の医療を担う役割として特別養護老人ホーム等の施設利用者の診療も行っています。上記のような特徴を生かした臨床場面での研修を行います。

・週間スケジュール　とみさわクリニック

	月	火	水	木	金	土
9:00 ～ 20:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務

※就業時間は週 26 時間である

・年間スケジュール　とみさわクリニック

４月	
５月	島根県精神科医懇話会参加
６月	日本精神神経学会参加
７月	子どもいじめ防止学会参加 島根県精神科医懇話会参加
８月	日本芸術療法学会研修セミナー講演
９月	日本臨床芸術療法協会・学術大会参加 島根県精神科医懇話会参加
１０月	
１１月	日本芸術療法学会参加
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会参加
２月	
３月	島根県精神科医懇話会参加

⑰　医療法人同仁会あさひクリニック

・施設形態：医療法人、民間診療所

・院長名：糸賀　基

・指導責任者氏名：糸賀　基

・指導医人数：1 人

・精神科病床数：0 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	33	0
F1	8	0
F2	186	0
F3	266	0
F4 F50	354	0
F4 F7 F8 F9 F50	2	0
F6	7	0
その他	15	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

単科精神科病院のサテライトクリニックとして、外来部門の一部を独立させた形で開院しており、大規模精神科デイケアも行っている。

他の精神科診療所と比べ、統合失調症圏の患者さんの割合が多いため、生活支援、就労支援を総合的に行うため、PSW を中心として関係諸機関との連携を密にとり、地域に根ざした医療を提供している。

・週間スケジュール　あさひクリニック

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	外来診察	外来診療	デイケア	外来診察	デイケア	外来診察
13:30-17:00	外来診察	外来診療	デイケア		外来診察	

随時、関係者会議、支援会議に参加

※就業時間は週 40 時間以内である。

・年間スケジュール　あさひクリニック

４月	
５月	島根県精神科医懇話会参加
６月	日本精神神経学会参加
７月	山陰精神神経学会参加 島根県精神科医懇話会参加
８月	
９月	島根県精神科医懇話会参加
１０月	
１１月	中国・四国精神神経学会参加 島根県精神科医懇話会参加
１２月	
１月	島根県精神科医懇話会参加
２月	
３月	島根県精神科医懇話会参加

⑱ （医）エスポアール出雲クリニック

・施設形態：民間診療所

・院長名：高橋幸男

・指導責任者氏名：　高橋幸男

・指導医人数：1 人

・精神科病床数：0 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	425	0
F1	15	0
F2	145	0
F3	860	0
F4 F50	412	0
F4 F7 F8 F9 F50	131	0
F6	1	0
その他	40	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神科診療所として、認知症デイケア、精神科デイケアだけでなく、高次脳機能障がい者に特化したデイケア、就労支援事業所、相談支援など多機能に展開している。また、月１回、地域のコミュニティセンターに出かけて認知症の啓発活動を行っている他、出雲の精神保健と精神障害者の福祉を支援する会“ふあっと”として地域精神医療の発展のために医療・行政・他職種の人とのネットワークづくり、出雲圏域などの高次脳機能障がい者支援のネットワークづくりのためパワーネットワーク会議も開催している。

・週間スケジュール　エスポアール出雲クリニック

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
午後	外来	外来	デイケア	デイケア 自己学習	外来	外来
			施設訪問時 同伴			
17 時 以降			ふあっと （月１回）	出前交流塾 （月１回）		
〃			ﾊﾟﾜｰﾈｯﾄﾜｰｸ 会議・事例 検討（隔月 に１回）			

※就業時間が週 40 時間を超える場合は、当院が締結している「労働基準法第 36 条に基づく労使協定（36 協定)」に従い、専攻医との合意の上で実施される。

・年間スケジュール　エスポアール出雲クリニック

４月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
５月	事例検討会、交流塾、ふあっと、　島根県精神科医懇話会
６月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
７月	事例検討会、　交流塾、ふあっと、島根県精神科医懇話会
８月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
９月	事例検討会、　交流塾、ふあっと、島根県精神科医懇話会
１０月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
１１月	事例検討会、　交流塾、ふあっと、島根県精神科医懇話会
１２月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
１月	事例検討会、　島根県精神科医懇話会
２月	パワーネットワーク会議、交流塾、ふあっと
３月	事例検討会、　交流塾、ふあっと、島根県精神科医懇話会

⑲　九州大学病院

・施設形態：大学病院

・院長名：中村　雅史

・指導責任者氏名：中尾　智博

・指導医人数：10 人

・精神科病床数：65 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	165	11
F1	19	3
F2	321	83
F3	647	83
F4 F50	648	48
F4 F7 F8 F9 F50	1079	61
F6	4	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 1275 床を有する大規模な病院であり、精神科も 65 床という大学病院としては最大規模の病棟を有している。高度専門医療機関として、主に難治性の症例を中心に統合失調症（F2)、気分障害（F3)、神経症性障害（F4）などの治療にあたっている。また思春期症例、認知症、身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験できることも特徴である。精神療法の習得にも力を注いでおり、認知行動療法、精神分析・精神力動、森田療法のカンファレンス、セミナーを定期的に開催している。

・週間スケジュール　九州大学病院

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td rowspan="2">8：30－9：30</td><td rowspan="3">病棟業務</td><td>病棟カンファ</td><td rowspan="3">病棟業務</td><td rowspan="3">外来予診
リエゾン</td><td rowspan="3">病棟業務</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>抄読会</td></tr>
<tr><td>9：30－12：00</td><td>リエゾン</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td rowspan="3">13 :00－16 :00</td><td>病棟業務</td><td rowspan="4">病棟業務</td><td rowspan="2">病棟業務</td><td>教授回診</td><td rowspan="4">病棟業務</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td>病棟医長回診</td><td>医局会</td></tr>
<tr><td>チームカンファ</td><td>論文輪読会</td><td>抄読会</td></tr>
<tr><td>16 :00－17 :15</td><td>行動療法カンファ</td><td>精神分析セミナー</td><td>精神医学セミナー（不定期）</td></tr>
</table>

※就業時間は週 40 時間以内である

（1月単位の変形労働時間制。平均した 1 週間の勤務時間が 38 時間 45 分を超えない範囲内において定める始業及び終業の時刻、休憩時間並びに実労働時間。）

・年間スケジュール　九州大学病院

４月	オリエンテーション、SR1 研修開始、SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出、研修医グラウンドラウンド（毎月開催）
５月	教室研究会参加、福岡精神科集談会参加
６月	日本精神神経学会学術総会参加、日本老年医学会参加（任意）
７月	日本うつ病学会参加（任意）
８月	九州地区 11 大学合同研修会
９月	福岡精神科集談会参加、日本生物学的精神医学会参加（任意）
１０月	SR1・2・3 研修中間報告書提出、教室研究会参加、日本児童青年医学会参加（任意） 日本認知・行動療法学会参加（任意）
１１月	九州精神神経学会参加・演題発表、日本認知症学会（任意）
１２月	研修プログラム管理委員会開催
１月	福岡精神科集談会参加
２月	日本不安症学会参加（任意）
３月	SR1・2・3 研修報告書、研修プログラム評価報告書の作成、日本統合失調症学会（任意）
	その他、医師会が開催する「医療倫理」「感染対策」「医療安全」の各研修に参加する

⑳　福岡大学病院

・施設形態：私立大学病院

・院長名：三浦 伸一郎

・指導責任者氏名：堀 輝

・指導医人数：7 人

・精神科病床数：40 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	153	18
F1	7	9
F2	77	48
F3	103	53
F4 F50	216	56
F4 F7 F8 F9 F50	52	41
F6	39	1
その他	149	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

【研修の特色】

福岡大学病院は 771 床（うち精神科 40 床）を有する特定機能病院であり、「あたたかい医療」という基本理念を掲げ、救命救急センターでの 3 次救急の受け入れや地域のがん診療連携拠点病院としてがん診療など、地域の中核病院として社会のニーズに応えるよう医療活動を行っている。

当教室は伝統的に精神分析的精神療法などの精神療法を学ぶ環境が充実しており、地域精神医療に根ざした患者中心の臨床精神医療を徹底している。また大学病院における精神神経科の役割を果たすために、身体合併症患者のリエゾンコンサルテーション、緩和ケアチームや認知症疾患医療センターへの参画、救命救急センターと協力した自殺企図者への介入、産婦人科や小児科と協同した周産期母子、小児や児童思春期（虐待児とその家族、発達障害、ADHD など）への対応といった幅広い治療活動も行っている。

【研修の内容】

福岡大学病院では生物 - 心理 - 社会的な幅広い知識とバランスの取れた技能や態度を獲得し、精神科専門医の資格を取得することを目標とする。

専攻医は病棟医として入院患者を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画の策定、他科と協力関係の作り方などを、指導医から教育を受ける。病棟ではチーム制での診療を行っており、配属されたチーム内で複数の指導医よりアドバイスを受けることが可能である。また当施設

のデイケアは全国で初めて認可された大学病院デイケアであり、コメディカルスタッフも多く、多職種でのチーム医療を実践している。デイケアでは統合失調症や発達障害などを中心とした社会復帰プログラムを行っている。週に 1 回はデイケアプログラムにも参加し、退院後の経過といった継続的な医療について学ぶ機会も設けている。精神療法に関する研修、スーパービジョン（症例の治療に関する指導）なども希望者は受けられる。

当施設では大学という研究機関でもあるため、研究や学会発表についても指導を受けることが可能であり、病棟での上級医のほかに、臨床以外でも相談ができる病棟上級医以外の担当者をそれぞれの専攻医に配置している。（コンサルテーションシステム）学会等での発表や雑誌への投稿も定期的に行っており、その指導をコンサルテーションで受ける。希望者は大学院への進学も可能である。各々の興味のある臨床分野や研究分野があれば、より重点的にその領域に関わることが出来る。

・週間スケジュール　福岡大学病院

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr>
<tr><td>8:40-9:30</td><td>病棟カンファレンス</td><td>病棟カンファレンス</td><td>病棟カンファレンス</td><td>病棟カンファレンス</td><td>病棟カンファレンス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9:30-12:00</td><td>病棟診療</td><td>病棟診療</td><td>病棟診療</td><td>病棟診療</td><td>病棟診療</td></tr>
<tr><td>チーム
ミーティング</td><td>閉鎖病棟カンファレンス</td><td>デイケア</td><td>デイケア</td><td>チーム
ミーティング</td></tr>
<tr><td rowspan="6">13:00-17:30</td><td>病棟回診</td><td>病棟診療</td><td rowspan="2">病棟診療</td><td rowspan="2">病棟診療</td><td rowspan="2">病棟コミュニティミーティング</td></tr>
<tr><td>症例検討会</td><td rowspan="5">リエゾン回診</td></tr>
<tr><td>外来カンファレンス</td><td rowspan="3">デイケア
or
病棟診療</td><td rowspan="3">デイケア
or
病棟診療</td><td rowspan="3">病棟カンファレンス</td></tr>
<tr><td>リエゾンカンファレンス</td></tr>
<tr><td>医局会</td></tr>
<tr><td>抄読会</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

※本スケジュールにおける就業時間は週 40 時間以内（1 日 8 時間）である。なお、やむを得ず週 40 時間を超える場合は、36 協定を締結した上で対応する。

・年間スケジュール　福岡大学病院

４月	オリエンテーション
５月	福岡精神科集談会参加
６月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
７月	日本うつ病学会参加（任意）
８月	
９月	福岡精神科集談会参加 日本臨床精神神経薬理学会学術集会（任意） 日本自殺予防学会（任意）
１０月	
１１月	
１２月	九州精神神経学会参加・発表 医局年末研究会参加
１月	医局年始研究会参加
２月	福岡精神科集談会参加
３月	医局年度末研究会発表 日本社会精神医学会（任意）

㉑　旭川医科大学病院

・施設形態：国立大学法人、公的総合病院

・院長名：東　信良

・指導責任者氏名：橋岡　禎征

・指導医人数：3 人

・精神科病床数：31 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
F0	212	5
F1	28	3
F2	360	28
F3	544	26
F4 F50	203	8
F4 F7 F8 F9 F50	316	12
F6	12	1
その他	107	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

地域で活躍する精神科エキスパートの育成という目的に沿った研修プログラムになっています。研修期間を重複して、精神神経学会専門医だけでなく、精神保健指定医や各種サブスペシャリティ（日本総合病院精神医学会、日本認知症学会、日本てんかん学会など）の専門医資格が取得できます。さらに、学位取得について専門研修を行いながら大学院に在学することも可能です。このように本プログラム研修によって、サブスペシャリティ専門医資格や学位を取得後は、精神科エキスパートと呼ばれるにふさわしい知識と診療スキルが身につきます。

統合失調症、気分障害、認知症など主要な精神疾患について十分な研修ができます。また、総合病院精神科としてコンサルテーション・リエゾン精神医学にも力を注いでおり、身体合併症例や症状性を含む器質性精神障害の症例、緩和ケア症例なども十分に経験することができます。専攻医は、指導医によるマンツーマンでの指導のもと精神科面接、診断と治療計画の立て方、脳画像検査の評価法、薬物療法および精神療法の基本を学ぶことができます。また精神保健福祉士、公認心理師、看護師など多職種によるチーム医療の一員として患者支援に携わることを学びます。当科では、ビデオ・ポリソムノグラフィー（Video-polysomnography, V-PSG）を用いた睡眠障害関連の症例も経験できます。

・週間スケジュール　旭川医科大学病院

	月	火	水	木	金
午前	外来診療（予診・本診陪席） 病棟診療	外来診療	外来診療（予診・本診陪席） 病棟診療	外来診療 病棟診察	外来診療（予診・本診陪席） 病棟診療
午後	教授回診 多職種ケースカンファレンス 精神科セミナー	リエゾン リエゾンカンファレンス 病棟診療 クルズス	リエゾン 病棟診療	リエゾン 病棟診療 クルズス	リエゾン 病棟診療
17 時以降				リサーチカンファレンス	

※就業時間が 40 時間/週を超える場合は、当院が締結している 36 協定を遵守する。

・年間スケジュール　旭川医科大学病院

４月	オリエンテーション 毎月クルズス、精神科セミナーなどの各種の勉強会に参加
５月	
６月	日本精神神経学会総会参加（2 年目以降は演題発表）
７月	北海道精神神経学会例会参加
８月	夏季休暇（1 週間）
９月	
１０月	北海道精神神経学会生涯教育研修会参加
１１月	
１２月	北海道精神神経学会例会参加（演題発表）
１月	
２月	
３月	研修プログラム評価報告書の作成
随時	関連学会への参加（任意）、長期休暇以外の連続休暇（1 週間）

3．研修プログラム

（1）専門研修の目標と方法

専攻医は、精神科領域門制度専攻医研修マニュアルをもとに研修を行い、研修マニュアルに記載の各研修ガイドラインに添って、指導医の指導を受けながら、以下の領域の知識を広く学ぶ。

1. コアコンピテンシー　研修ガイドライン

精神科医にとって極めて重要な核となる能力　10 項目

1) 患者や家族の苦痛を感じとれる感性を錬磨し、苦痛を和らげるための努力を続ける姿勢
2) コミュニケーション能力を向上させて、チーム医療に積極的に参加し、必要に応じて適切なリーダーシップをとれる姿勢
3) 情報開示に耐える適正な医療を行う姿勢
4) 謙虚さと厳しさをもった自己研鑽の態度
5) インフォームド・コンセントを実施できる
6) 後進の指導ができる
7) 科学的根拠となる情報（EBM）を収集し、それを臨床に適用できる
8) 科学的思考、課題解決型学習、生涯学習の姿勢を身につける
9) 症例呈示と討論ができる
10) 学術集会に積極的に参加する

2. 総論　研修ガイドライン

以下の 12 項目について、各項目ごとの＜一般目標＞、＜行動目標＞に添って研修する。

1) 患者及び家族との面接
2) 疾患概念と病態理解
3) 診断と治療計画
4) 補助検査法
5) 薬物・身体療法
6) 精神療法
7) 心理社会的療法、精神科リハビリテーション、及び地域精神医療・保健・福祉
8) 精神科救急
9) リエゾン・コサルテーション精神医学
10) 法と精神医学(鑑定・医療法・精神保健福祉法・心身喪失者等医療観察法・成年後見制度等)
11) 医の倫理
12) 安全管理・感染対策

3. 疾患別　研修ガイドライン

疾患別に総論 1）～10）ないし 11）までの各項目について研修する。

1）統合失調症　F2
2）気分障害　F3
3）神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（摂食障害を含む）F4 (F50)
4）児童・思春期精神障害（摂食障害を含む）F4、F7、F8、F9 (F50)
5）精神作用物質及び嗜癖行動による精神および行動の障害　F1
6）症状性を含む器質性精神障害　F0（認知症など）
7）成人のパーソナリティ及び行動の障害　F6
8）てんかん　G40、G41
9）睡眠障害　F51、G47

（2）年次研修目標と年次研修項目

1. 年次研修目標

＜１年目＞

1）基幹病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、良好な治療関係を築くための面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・コンサルテーション精神医学を経験する。
2）特に面接よって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構　築し維持することを学ぶ。
3）院内カンファレンスで発表する。

＜２年目＞

1）指導医の指導を受けつつ、より自律的に面接の仕方を深め、診断と治療計画策定の能力を充実させ、薬物療法の技術を向上させる。専門的な精神療法として認知行動療法と精神力動的精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。
2）精神科救急に従事して、対応の仕方を学ぶ。
3）神経症性障害及び種々の依存症患者の診断・治療を経験する。
4）院内のカンファレンスで発表し討論する。

＜３年目＞

1）指導医から自立して診療できるようになる。
2）診断と治療計画及び薬物療法の診療能力をさらに充実させるとともに、認知行動療法、精神力動的精神療法、森田療法・内観療法のいずれかについて、指導者の下で経験する。
3）慢性統合失調症患者等を対象とした心理社会的療法、精神科リハビテーション・地域精神医療等を学ぶ。
4）児童・思春期精神障害及びパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。

5) 外部の研究会などで症例発表する。

2. 年次研修項目

＜１年目＞

1) 患者及び家族との面接
2) 診断と治療計画
3) 疾患の概念と病態の理解
4) 薬物療法
5) 精神療法
6) 補助検査法
7) 医の倫理
8) 安全管理
9) 統合失調症
10) 気分障害
11) 症状性を含む器質性精神障害、認知症
12) リエゾン・コンサルテーション精神医学

＜２年目＞

1) 患者及び家族との面接
2) 診断と治療計画
3) 薬物療法
4) 精神療法
5) 補助検査法
6) 安全管理
7) 医の倫理
8) 精神科救急
9) 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害、摂食障害
10) 精神科作用物質による精神及び行動の障害
11) てんかん
12) 睡眠障害

＜３年目＞

1) 診断と治療計画
2) 薬物療法
3) 精神療法
4) 心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神療法
5) 法と精神医学
6) 補助検査法
7) 安全管理・感染予防

8) 児童・思春期精神障害（摂食障害を含む）
9) パーソナリティ障害

（3）研修項目一覧、経験症例数及び症例報告数

日本精神神経学会、専攻医研修マニュアルに記載のとおり

（4）学術活動

専門研修中、次の事を習得し、研修中に論文の執筆、学会発表を行う。

1. 科学的根拠となる情報を収集し、それを適応できること。
2. 研究や学会発表、論文執筆行うこと。
3. 科学的思考、課題解決型学習、生涯学習の姿勢を身につけること。
4. 学術集会に積極的に参加すること。

以下の目標が課せられている。

学会発表：日本精神神経学会ならびにその関連学会で臨床研究の発表（第一演者として）を1回以上行うこと。発表の場（学会）は、原則としてA群・B群とする。

（5）ローテーションモデル

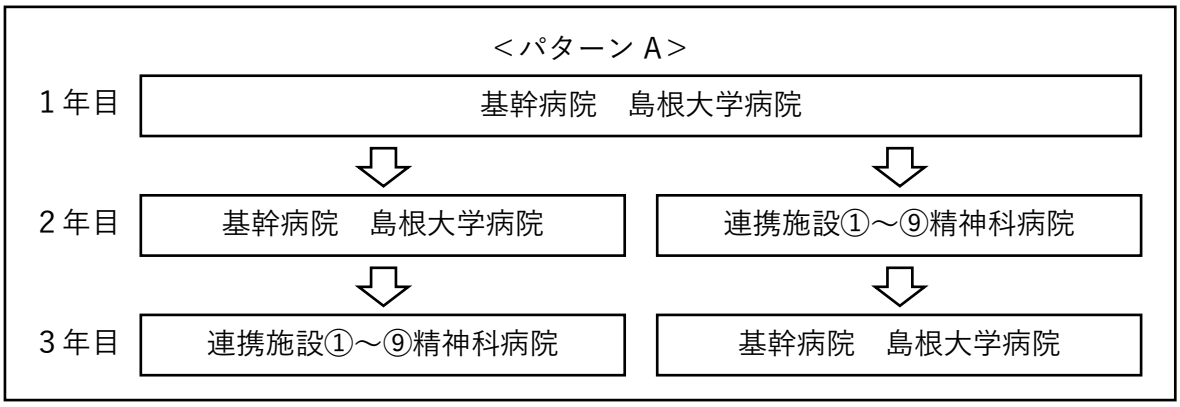
専攻医は、基幹病院で1年間（1年目、2年目または3年目）研修を行う。また、2年目あるいは3年目に21連携施設、パターンA、パターンB、パターンC、パターンDより選択する。

＜パターンA＞

パターンAの連携施設（精神科病院）は以下の病院である。

専攻医はこの①～⑨の精神科病院から、希望する病院を選択できる。

①松江青葉病院
②こなんホスピタル
③島根県立こころの医療センター
④海星病院
⑤石東病院
⑥西川病院
⑦松ヶ丘病院
⑧奥出雲コスモ病院
⑨岡山県精神科医療センター



専攻医は、精神科病院において、地域精神医療活動や精神科デイケア、訪問診療、依存症治療、認知症デイケアなどに参画して、福祉職などの多職種とのチーム医療を学ぶ。

＜パターン B＞

パターン B の連携施設（総合病院精神科）は以下の病院である。

専攻医はこの⑩～⑭の総合病院から、希望する病院を選択できる。

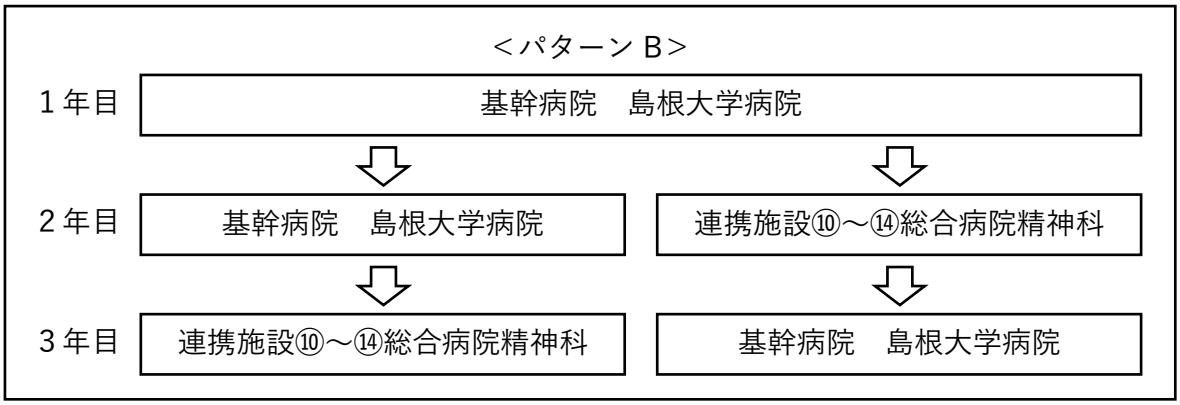
⑩安来第一病院

⑪松江市立病院

⑫松江赤十字病院

⑬島根県立中央病院

⑭隠岐広域連合立隠岐病院



専攻医は選択した総合病院精神科で、リエゾンコンサルテーション精神医療を通じて、身体合併症医療の技術を向上させることができる。また、選択した総合病院精神科と精神科クリニックおよび精神科病院との地域連携についても学ぶことができる。

＜パターン C＞

パターン C の連携施設（精神科クリニック）は以下のクリニックである。

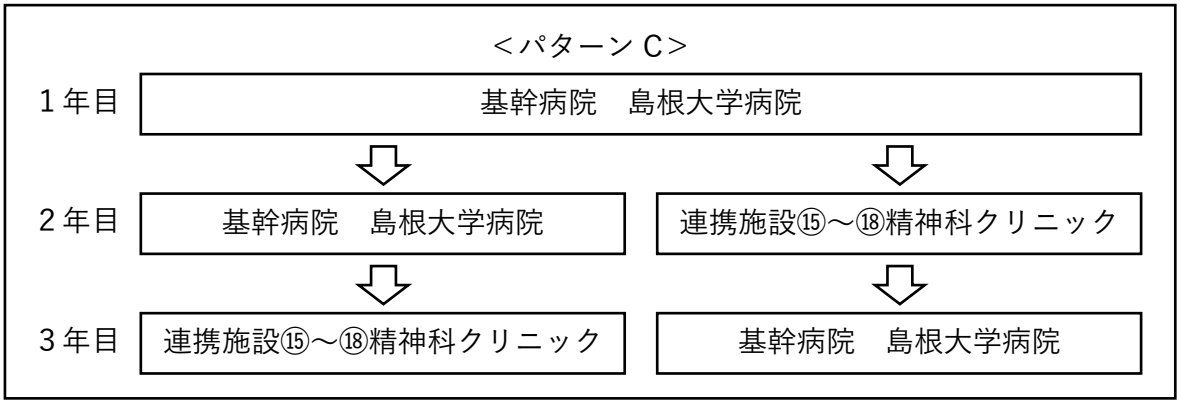
専攻医は、以下の⑮～⑱から希望するクリニックを選択できる。

⑮こころの診療所細田クリニック

⑯とみさわクリニック

⑰あさひクリニック

⑱エスポアール出雲クリニック



これら 4 つのクリニックは各々が特徴的とも言える医療を展開しており有意義な研修が可能であると考えられる。

⑮細田クリニック：産業精神保健や学校精神保健などを通じて、地域の精神科関連との連携研修が可能である。

⑯とみさわクリニック：精神分析的心理療法や芸術療法、あるいは摂食障害の心理療法が学べる。

⑰あさひクリニック：精神科デイケアを通じて、デイケアスタッフとのチーム医療が研修可能である。

⑱エスポアール出雲クリニック：重度認知症デイケアと高次脳機能障害に特化したデイケアの活動の地域精神医療に於ける役割やチーム医療における医師の責任が研修できる。

＜パターン D＞

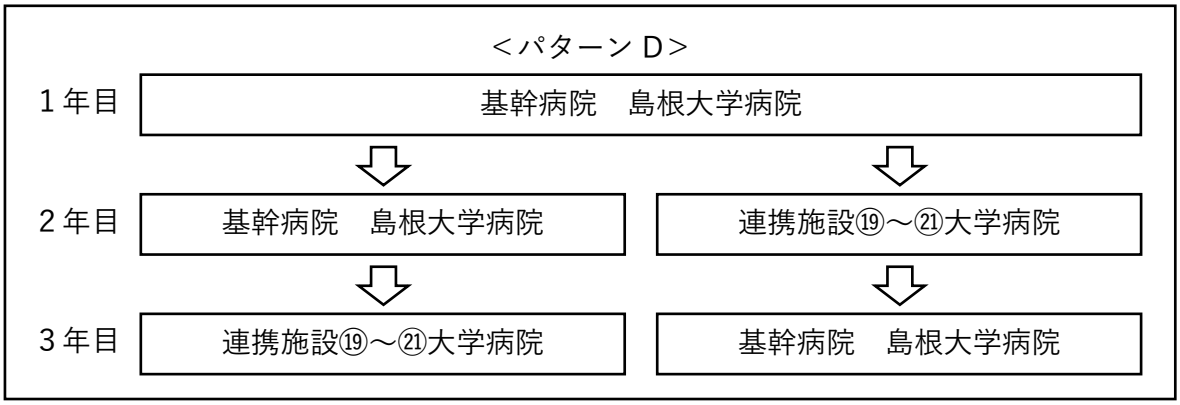
パターン D の連携施設（島根県外の大学病院）は以下の病院である。

専攻医は、以下の⑲～㉑から希望する大学病院を選択できる。

⑲九州大学病院

⑳福岡大学病院

㉑旭川医科大学病院



専攻医は、島根県外にある大学病院において、大病院における特徴のある医療を学ぶことができる。九州大学病院では、1000 床以上の病床を有する大規模病院での精神医療を学べる。福岡大学病院では、同病院伝統の充実した環境が整った精神分析的精神療法が学べる。また、旭川医科大学病院では、地域で活躍する精神科エキスパートと呼ばれるにふさわしい知識と診療スキルが身につく。

（6）研修の週間・年間計画

『**2．連携施設名と各施設の特徴**』の各施設の週間・年間スケジュールを参照。

いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

4．プログラム管理体制について

（1）プログラム管理委員会

- 委員長　医師：稲垣 正俊
- 医師：大脇 孝治
- 医師：林田 麻衣子
- 医師：長濱 道治
- 看護師：井上 美香
- 薬剤師：曽田 重人
- 医師：藤本 晶彦
- 医師：挾間 玄以
- 医師：福田 賢司
- 医師：河野 公範
- 医師：安田 英彰
- 医師：松本 貴久
- 医師：坪内 健
- 医師：今岡 大輔
- 医師：宮藤 智史
- 医師：片山 征爾
- 医師：板倉 征史
- 医師：石王 覚
- 医師：森﨑 洋平
- 医師：有田 茂夫
- 医師：細田 眞司
- 医師：富澤 治
- 医師：糸賀 基
- 医師：高橋 幸男
- 医師：中尾 智博
- 医師：堀 輝
- 医師：橋岡 禎征

（2）プログラム統括責任者

稲垣 正俊

（3）連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5．評価について

（1）評価体制

島根大学病院： 稲垣 正俊
松江青葉病院： 藤本 晶彦
こなんホスピタル： 福田 賢司
島根県立こころの医療センター： 挾間 玄以
海星病院： 河野 公範
石東病院： 安田 英彰
西川病院： 松本 貴久
松ヶ丘病院： 坪内 健
奥出雲コスモ病院： 今岡 大輔
岡山県精神科医療センター： 宮藤 智史
安来第一病院： 片山 征爾
松江市立病院： 板倉 征史
松江赤十字病院： 石王 覚
島根県立中央病院： 森﨑 洋平
隠岐広域連合立隠岐病院： 有田 茂夫
こころの診療所細田クリニック： 細田 眞司
とみさわクリニック： 富澤 治
あさひクリニック： 糸賀 基
エスポアール出雲クリニック： 高橋 幸男
九州大学病院： 中尾 智博
福岡大学病院： 堀 輝
旭川医科大学病院： 橋岡 禎征

（2）評価

1. 形成的評価

研修中の専攻医の未達成部分を明らかにし、フィードバックするために随時行われる評価

1) 指導医コメント欄に具体的指導内容を記載する。
2) 研修項目評価　専攻医の自己評価と指導医評価

2. 総括的評価

最終研修年度の研修終了時点で、研修項目の達成度と、経験症例数、形成的評価を参考にして、知識、技能、態度、医師として適正があるかを評価

3. 達成度評価基準

1) コアコンピテンシーは全項目必須、すべてB判定以上達成していること。
2) 総論、各論は、それぞれ、未経験の項目５％未満であり、未経験の項目を除いた70%以上がB判定以上であること。
3) ただし、総論の「医の倫理」、「安全管理・感染対策」に関しては必須とする。

4. 多職種評価

各施設のメディカルスタッフの代表により、専攻医の態度やコミュニケーション能力等について評価がなされる。専門研修指導責任者がメディカルスタッフの評価を確認し、評価を登録する。

5. 専攻医からの評価

専攻医は研修指導医および研修プログラムについての評価を行う。

研修プログラム総括責任者は、１年ごとに専攻医と面接を行い、専攻医から研修プログラムならびに研修指導医に対する評価を得る。

（3）評価時期と評価方法

1. 評価の時期

当該施設の研修修了時（同じ施設に１年以上いるときは、少なくとも１年に１回）

2. 評価の回数

1) コアコンピテンシー：毎回全項目
2) 総論：できる範囲で毎回全項目
3) 各論：原則、その疾患を研修した施設での研修修了時

3. 評価方法

3か月ごとに、カリキュラム基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、そ

の後研修方法を定めプログラム管理委員会に提出する。

研修目標の達成度を、当該施設指導責任者と専攻医がそれぞれ６ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。

１年後に１年間のプログラム進行状況並びに研修目標達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。

またその結果を統括責任者に提出する。その際専攻医研修実績および評価には記録簿／システムを用いる。

（４）研修時に則るマニュアルについて

研修システムの研修記録欄に実績を記載し、指導医よる形成的評価フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年１回行う。

島根大学病院にて専攻医の研修履歴（施設､期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは、専攻医研修マニュアル及び指導医マニュアルである。

（５）専攻医研修実績記録

日本精神神経学会ホームページの専門研修ページの研修記録欄に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。

少なくとも年に１回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形的自己評価行うこと。

研修を了しようする年度末には総括的評価により評価が行われる。

（６）指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い、記録する。

少なくとも年１回は指定された研修項目を年次ごとの達成標に従って、各分野の形成的評価を行い、評価者は「劣る」､「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立たせる。

（７）修了要件

1. **日本専門医機構が認定した精神科専門研修施設で、精神科専門指導医の下に、研修ガイドラインに則って、3 年以上の精神科臨床研修を行う。**
2. **研修の結果、どのようなことができるようになったかについて、専攻医と研修指導医が行うチェックリストによる評価、多職種による評価、経験症例数リストの提出を求める。**
3. **プログラム統括責任者により、受験資格が認められたことをもって修了したものとする。**

６．全体の管理運営体制

（１）専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

（２）専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

（３）プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設指導による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

（４）ＦＤの計画・実施

年１回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。